

ユニセフ出前授業 … 11月に実施した出前授業は3件 …



11月7日：仙台市立北仙台小学校5学年(84名)、11月15日：大河原町立大河原中学校1～3学年(650名)、11月25日：みやぎ生協八木山店委員会秋のこ～ぷのつどい(7名)での実施でした。小中学生にとっては、水や食べ物、学校で勉強やスポーツができる毎日があたりまえだと捉えています。世界には災害や紛争、貧困などにより、日本とは大きく異なる暮らしがあることを知ることができました。大人の方々にとっては、歴史で知っている第二次世界大戦後の悲惨な状況や、日本の戦後復興とユニセフからの支援のことを改めて知り、世界で支援を必要としている人たちを、継続的に支援しなければならないことを理解していただきました。学校での募金活動も、一般募金も減少していますが、開発途上国の状況の理解が今後の募金につながることを願っています。



みやぎ生協「ユニセフ募金応援キャンペーン第1期」

10月12日から11月8日まで、連続4週間実施しました。みやぎ生協では、20年間組合員とお取引先様の協力で開催されてきました。「対象となる商品」購入で、一定額がユニセフに募金されるというもの。第1期は、50社から43万円の募金協力をいただきました。



みやぎ生協こ～ぷ委員会による

「ハンド・イン・ハンド」(募金活動)実施中

県内60エリアにこ～ぷ委員会があり、全エリアで「ユニセフ・ハンド・イン・ハンド」を実施します。バザーでの収益や、店舗祭りなどのイベントで同時開催することもあります。今年度は11月までに36万円の協力をいただいています。



写真展「アグネス大使シリア周辺国訪問～シリア難民の子どもたちを“失われた世代”にしないために」

シリア内戦から7年。シリア国内や周辺国に逃れて、支援を必要としている子どもたちは800万人以上。2017年4月にアグネス・チャン ユニセフ・アジア親善大使がシリア周辺国のトルコ・ヨルダン・レバノンの難民キャンプを視察。周辺国の地元政府やユニセフによる「失われた世代」を作らないための取り組みを取材し、日本ユニセフ協会がその報告を30点の写真にまとめました。全国で巡回展示を行っています。宮城県では、11月13日から18日まで、みやぎ生協文化会館ウイズ2Fギャラリーで展示しました。7年間も学ぶことができない子どもたちが存在していることを知ってください。



東ティモール・スタディツアー参加者による報告会

東北・九州の13生協が2014年から「東ティモールの新生児と母親のためのコミュニティ保健ケアの改善」の指定募金に取り組んでいます。2017年9月、その後どのように変化しているかを視察するツアーに、みやぎ生協から代表として松木弥恵理事が参加しました。視察直後の10月24日、「ユニセフやまがたのつどい」で報告する機会がありました。宮城県での報告会は年明けの1月30日(火)に開催予定です。

